

のない程劣悪である、食ふか食はれるか最後迄戦ふ、総同盟は徒らに闘争するのではなく、凡ゆる事件を取上げて問題にするのでもない、非道なる資本家に對しては飽く迄戦ふ、こんな資本家を倒す事が非常時打解である争議員は僅か十名だが勝利に歸する様後援を願ふ。

2、演 説

○総同盟九州聯合會 元 阪 順 次

非常時だ、國防に備へよと言つて多くの團體が生れたがこの大半は労働者である、非常時に幻惑されて一切を犠牲にする事は間違つてゐる、要は國民の生活安定にある腹一杯飯を食つて充分に仕事を其處に日本の興隆があるのだ自分さへ上げれば労働者はどうでもよいと言ふ事だけでも立國の精神に反するのだ、小倉工場の待遇をの一、二を見

ても平均賃金壹圓貳拾錢労働時間は十二時間、勤続平均六ヶ年餘で昭和五年以來平均參錢五厘の昇給である、會社は資本金百萬圓で月七千圓の純益を擧げてゐる、革改の必要は大いにある、國家産業は吾々労働者の力を繕らなければならぬと言ふ事を知らしめる爲頭迷なる資本家には飽く迄戦ふのだ、眞の労働者自身の心を認識した市民諸君は國家、資本家、労働者の問題を如何にすべきかを考へられ又労働者の生活が如何に不安定であるか吾々の言か是なりとして援助されたい。

○総同盟九州聯合會 主事 久 保 時 造

昭和五年十一月二十一日我が九聯應援の下に争議をやつたのであるが當時は財界不況であり又警察署長の調停でもあり涙を飲んで調印し、資本家、従業員、小倉署長の三者間